

シニアのための Market Eye(2018年11月12日)

11月9日終値

NY ダウ	ナスダック	S&P500	シカゴ日経先物	米 10 年債	NY原油先物
25,989.30 (-201.92)	7,406.90 (-123.98)	2,781.01 (-25.82)	22,125 円 ↓	3.182% ↓	60.19 (-0.48)
Vix 指数	USD Index	独 Dax	独 10 年債	英 FTSE	英 10 年債
17.36 (+0.64)	96.74 (+0.19)	11,529.16 (+1.84)	0.404% ↓	7,105.34 (-35.34)	1.488% ↓

9日発表の主要経済指標	前回	予想	結果
英 7-9 月期 GDP (前期比)	0.4%	0.6%	0.6%
米 10 月卸売物価指数 (前月比)	0.2%	0.2%	0.6%
米 10 月卸売物価指数 (前年比)	2.6%	2.5%	2.9%
米 10 月卸売物価指数 (コア 前月比)	0.2%	0.2%	0.5%
米 10 月卸売物価指数 (コア 前年比)	2.5%	2.3%	2.6%
米 11 月ミシガン大消費者景況指数	98.6	98.0	98.3
米 9 月卸売在庫 改定値 (前月比)	0.3%	0.3%	0.4%

9日17時以降のドル円 15分足チャート



◇【NY 株式市場】ダウ:25,989.30(-201.92) ナスダック:7,406.90(-123.98)

- ①NY 株式市場、NY ダウは一時 308ドル安まで下落するなど終日マイナス圏での取引に終始。中国の 10 月卸売物価指数が前月から鈍化し、アジア株が全面安となったほか、前日の FOMC で利上げ継続方針が維持されたことで NY 株式市場でも売りが先行。10 月生産者物価指数が予想を上振れインフレ上昇への警戒感が強まったほか、原油相場の下落も嫌気されたことが下落要因。セクター別では、家庭用品・パーソナル用品や食品・飲料・タバコが上昇した一方テクノロジー・ハード・機器や自動車・自動車部品が下落
- ②シカゴ日経平均先物は前日比 340 円安の 22,125 円で取引を終了。
高値は 22,485 円、安値は 22,010 円。先週末の日経平均終値比 125 円安。
- ③先週末の日経平均は 236 円安の 22,250 円と大幅反落。前日の 401 円高の反動のほか、株価指数先物への売りに加え週末の持ち高調整、さらには上海株や香港ハンセン指数の下落の影響も。

週明け、シドニー市場のドル円は 113 円 64 銭から 113 円 86 銭で取引を開始
ポンドは 1.2916 ドルへ下落したほかユーロは 1.1322 ドルへ下落するなど軟調スタート。

FOMC 声明を受けて、改めて 12 月の米利上げとその後の利上げ継続への意識が高まり、8 日の欧米市場でドル買いが優勢となる中、ユーロは 1.14 ドルを割り込んだ後、9 日の東京市場から欧州市場にかけて 1.13 ドル台前半を中心に小動きを継続。ポンドも同様に 1.3004 ドルへ下落。イタリアの予算を巡るイタリア政府と EU の対立懸念や依然不透明な英国の EU 離脱問題(英 EU 離脱担当相がアイルランドとの国境問題を受け入れることは難しいと発言)などを抱えるユーロやポンドは軟調地合いを継続。

ドル円は東京市場で 114 円 08 銭を高値に伸び悩む中、日経平均株価の 200 円超の下落のほか、上海株や香港ハンセン指数の下落を背景に 113 円 84 銭へ下落。ダウ先物も下落に転じたことから欧州市場序盤に 113 円 76 銭まで下落。

米 10 月卸売物価指数は前月比 +0.6%と 2012 年 9 月以来約 6 年ぶりの高水準となったほか、前年比でも今年 7 月以来の +2.9%と上昇。コア指数も前月比 +0.5%と 2016 年 1 月の過去最高と並んだほか、前年比 +2.6%と、予想をそれぞれ上回り、前月比では過去最高となった 2016 年 1 月に並んだほか、前年比でも 7 月以来の最高を記録。予想以上にインフレ率が上昇していることで前日の FOMC で示された利上げ継続の方針を裏付ける結果に。しかし、米長期金利は先の中間選挙で議会下院を民主党が過半数を奪還したことでトランプ政権の主張する追加の減税法案が難しくなったとの見方に加え、通商交渉での中国への強硬姿勢が一段と強まるとの警戒感も聞かれ、世界経済や米国経済への影響が懸念されるほか、原油価格が一時 60 ドル割れまで下落したことも影響し、米 10 年債利回りは 3.18%台へ低下。米卸売物価指数に反応してドル円は一時 113 円 99 銭まで上昇したものの、NY ダウが時 308 ドル安まで下落したほか、米 10 年債利回りも低下したことで 113 円 64 銭まで下落する場面も。結果的に 113 円 82 銭で先週末の NY 市場の取引を終了。

イタリア伊経済・財務相は予算案について「主な柱は変更しない」として明日 13 日にイタリアの 2019 年予算案の提出期限を控え、改めてイタリアの財政問題への懸念が広がりユーロは 1.1317 ドルへ下落し、1.1336 ドルで取引を終了。

また、ポンドもメイ政権を支援している北アイルランドの民主統一党が、ブレグジット交渉を巡り英国を分断する合意を支持しないと表明したほか。また、前外相の弟で運輸副大臣を務めたジョー・ジョンソンが英 EU 離脱最終案に反対し、国民投票の再実施を求め辞任するなど離脱交渉の楽観的な見方が後退したことで 1.2957 ドルへ下落するなどドルの対主要通貨での強弱を示すドルインデックスは上昇。

◇本日 11 月 12 日の注目材料

- ドル円は 5 日移動平均線(113 円 75 銭)を下値支援として底堅い値動きを継続できるか、先週末のシカゴ日経平均先物が 22,125 円で取引を終えており、週明けの日経平均株価が 22,000 円割れとなればリスク回避の動きが強まり、ドル円の下押し圧力が強まる可能性もあるだけに要注意。
- 明日 13 日に欧州委員会に予算案の再提出期限を迎えるイタリアの財政問題への

警戒感からユーロが 1.13ドル台を割り込むか注目。また、ポンドも EU 離脱交渉を巡る不透明感が再燃されてことの影響から軟調な展開に可能性もあるだけに注目。
・NY 市場の休場への影響にも注目。

自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。